

低くても怖い放射能

低線量内部被ばくと健康被害

お話をされる方

児玉順一さん

埼玉県ときがわ町こだま医院院長



埼玉医科大学勤務を経て、埼玉県ときがわ町でこだま医院開院。内科の臨床に携わりながら、故・肥田舜太郎医師の遺志を継ぎ、低線量での内部被ばくとそれによって起きる様々な病気への研究を続ける。福島事故の後は放射能への不安に苦しむ母親を支え続ける活動と共に“日本からの手紙”の論文等で世界の放射能汚染にも警鐘を鳴らし、各地で講演を続ける。

お話の内容

- ① わずか70年 世界中に広がった放射能汚染
- ② 低線量被ばくて病気が増えた
- ③ 徳島の糖尿病と伊方原発稼働・停止・再稼働
- ④ トリチウム汚染でひろがる健康被害
- ⑤ 四国、瀬戸内、山陰地方の健康
- ⑥ 放射能汚染から生命と健康を守るための処方箋

5月4日（月・祝日） 14時～16時
周南市保健センター3階 健康増進室3

参加費：無料 テキスト代「アヒンサー 7号」その他・500円 カンパ歓迎

主催：児玉さんのお話を聞く会 共催：伊方原発をとめる山口裁判の会 “原発いらんよね” 光・下松市民の会

連絡先：0834-88-3212（三浦）09048024787（山田）

